

愛川町教育委員会

令和5年10月24日

愛川町教育委員会 10月定例会会議録

- 1 会議日程 令和5年10月24日（火）
午前9時から午前10時23分まで
- 2 会議場所 愛川町町役場2階201会議室
- 3 議事日程 日程第1 会議録の承認について
日程第2 教育長報告事項について
(1) 教育長報告
日程第3 令和5年度教育委員会表彰（随時）被表彰者の決定について
【非公開】
日程第4 その他
(1) 教育委員会の点検・評価について
(2) 令和5年度町学力検査の結果と今後の展望について
(3) 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果と今後の展望について
- 4 出席委員 教育長 佐藤 照明
教育委員（教育長職務代理者） 大貫 洋
教育委員 梅澤 秋久
教育委員 篠崎 美和
教育委員 齊郷 浩之
- 5 説明を要した者及び議事録作成のため出席した者
教育次長 澤村 建治
指導室長 菅沼 知香子
教育開発センター所長 瀧 喜典
教育総務課長 宮地 大公
生涯学習課長 上村 和彦

スポーツ・文化振興課長

齋藤 潤

指導室指導主事

會場 道子

教育総務課副主幹

佐藤 邦彦

◎開会

- （佐藤教育長） 改めまして、皆さんおはようございます。

それでは、本日の出席者は5人です。定足数に達しておりますので、愛川町教育委員会10月定例会は成立いたしました。

よって、これより開会いたします。

本日の議事日程はお手元に配付のとおりでありますから、ご承知願います。

これより日程に入ります。

◎日程第1

- （佐藤教育長） 初めに、日程第1、会議録の承認についてを議題といたします。

9月定例会開催分でございます、会議録については事前に配付のとおりであります。

これより質疑に入ります。

ご意見、ご質疑がありましたらお願いいたします。

（「質疑なし」との声あり）

- （佐藤教育長） 特に質疑ありませんので、質疑を終結し、表決に入ります。

日程第1、会議録の承認についてであります。本案を原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

- （佐藤教育長） ご異議ないものと認めます。

よって、日程第1は原案のとおり承認されました。

なお、本定例会終了後に会議録署名原本をお回しいたしますので、委員の方は署名をお願いいたします。

◎日程第2

- （佐藤教育長） 次に、日程第2、教育長報告事項についてを議題といたします。

初めに、教育長報告について、資料1に基づき報告をいたします。

9月26日、教育委員会定例会、全員協議会及び教育委員会の局内会議が行われました。

27日、懐かしの学び舎体験事業ということで、この日は田代小学校と高峰小学校3年生の社会科の授業がございましたので、見学に行ってきました。J：COMの取材も入りまして、ジモトーク（J：COMで放送されている情報番組）で1週間放映されておりました。J：COMと契約していなければ、「ど・ろーかる」という地域情報アプリを使用してスマートフォンで見ることができます。機会があったら見ていただけたらと思います。

それから、私立幼稚園協会の予算要望がございました。

28日、全国関東大会出場者報告会ということで、今回は、走幅跳で全国大会に出場した愛川中原中学校の3年生の女子生徒、それから愛川東中学校の剣道部が団体戦で関東大会ということで、剣道部6人の生徒が報告会に参加をいたしました。

29日は学校訪問で、田代小を訪問した後、郷土資料館で企画展示を見学いたしました。また、県央教育事務所管内の教育長会議及び懇親会が清川村でございましたので、参加をいたしました。

10月2日、教育委員会の職員の辞令交付式がありましたので、参加をいたしました。

3日、懐かしの学び舎体験事業ということで、半原小学校3年生の社会科の授業がありましたので、見学に行ってきました。

中津リバース（少年野球チーム）の監督の方が来庁されましたので、お話を伺いました。

4日、町議会議員当選証書付与式がありました。新たに議員になられた方が3名いらっしゃいました。

町村の教育長会幹事会秋の総会・研究会が山北町にてございましたので、参加をいたしました。令和5年10月より本町が事務局となりましたので、責任をもって事務局運営を進めていきたいと思っております。

5日、町中学校長会予算要望。また、菅原小学校の稲刈りを視察させていただきました。

6日、愛甲郡の校長会の予算要望で、お2人の校長先生が来室されました。

町表彰審査委員会、11月3日に行われます町表彰の審査を行いました。

7日、中津第二小学校の運動会がありましたので、午前中に見学をいたしました。

10日、政策調整会議。ふれあいファミリアミーティングが半縄地区で行われましたので、参加をいたしました。

11日、令和6年度の当初予算の編成会議がありました。来年度に向けての各課から予算要望を提出するわけですが、その説明会がありました。

県央教育事務所の所長さんが来室されました。

12日、大和市教育委員会、海老名市教育委員会、それぞれ事務連絡がありまして、訪問をさせていただきました。

13日、小学校連合運動会。現在、小学校連合運動会は、中学校区単位で行われておりますので、中津小学校、菅原小学校が中津小学校で運動会を実施しましたので、見学に行ってきました。スポーツ競技と交流種目の2つに分かれていて、交流を目的とした種目については2つの小学校の交流が図れて、とても良かったと思えました。今後、愛川東中学校に多くの生徒が進学しますので、そういう面でも、この小学校連合運動会の中学校区単位というのは、意義あるものではないかというふうに感じました。

文化財保護委員会、町村教育長会Cブロック研究会歓送迎会がございましたので、参加をいたしました。

14日は、宮ヶ瀬ふるさとまつりがございましたので、参加をいたしました。

資料の2枚目について、16日ですけれども、愛川町議会令和5年第3回の臨時会がございまして、議長等の選任がございました。ご存じのように、議長には井出議員、副議長には山中議員が就任されました。

行政経営会議がございました。

17日、監査委員辞令交付式がございまして、参加をいたしました。議員の中からは、阿部議員がこの監査委員になられましたので、辞令交付を受けております。

17日、神奈川県教育長に、事務連絡がありまして訪問させていただきました。

18日、小・中学校教頭会議、19日は三師会学校保健連絡合同研修会・厚木愛甲地区学校保健会講演会ということで、例年、厚木市文化会館で行われている研修会がございまして、現在、厚木市文化会館が改修工事に入っていますので、町の文化会館を使つての研修会・講演会がございました。

ふれあいミーティングが二井坂区で夜間にありましたので、参加をいたしました。

20日、六倉区のふれあいミーティングが夜間にありましたので、参加をいたしました。

これ以外の地区は、文書でふれあいミーティングに相当するやりとりをしているということでございます。

21日の土曜日は中学校の文化発表会で、町内3中学校を回ってまいりました。

22日は町のふるさとまつりということで、大変多くの方が参加をされました。教育委員会関係は文化協会による展示、ステージでの演目などが文化会館で行われました。

23日は、県総合教育センターの所長さんが来室をされました。

以上でございます。

ご質疑等がありましたらお願いいたします。

大貫委員。

- （大貫委員） 教育長報告の内容自体についてはではないのですが、私が、教育長も参加された10月6日の町の表彰審査委員会に代表で出席しました。そこで、町の表彰者を選考する条例の中に、「孝子節婦等」という表現がありました。要するに、親孝行をした子ども、それから貞節を守ったご婦人、節度ある暮らしをしたご婦人等を選考基準にするという文章表現があったのです。この孝子または節婦等というこの文章表現、この言葉自身は悪い意味ではないのですが、これはやはり現代の社会情勢とかそういったようなものに関して、少し表現が合わないのではないかと、その場で、個人的な意見ということで発言しました。

なぜここでこの話題に触れるかという、恐らく、教育委員会のいろいろな選定基準、条例の中にも、現代の情勢に合わせて、やはり文章表現で語句を見直したほうがいいものがあるのではないかというふうに思ったので。この機会に見直したほうがいいのではというような意見です。以上でございます。

- （佐藤教育長） ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、他に質疑がありませんので、教育長報告についてはご了承願います。

◎日程第3

- （佐藤教育長） 続いて、日程第3、議案第15号 令和5年度愛川町教育委員会表彰（随時）被表彰者の決定については、個人情報を取り扱う案件となるために、非公開による審議とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

- （佐藤教育長） ご異議ないようでありますので、議案第15号につきましては、非公開で審議を行いたいと思います。

それでは、ここで暫時休憩いたします。

◎日程第4

- （佐藤教育長） それでは再開いたします。

休憩前に引き続き、会議を行います。

日程第4、その他を議題といたします。

初めに、教育委員会の点検・評価について、資料2に基づき、担当からご説明申し上げます。

教育総務課長。

- （宮地教育総務課長） それでは、日程第4、その他、（1）教育委員会の点検・評価について、資料2を基に主な事項について説明をいたします。

町では、効果的な教育行政を推進するため、教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価を実施し、報告書としてまとめておりますが、現在、令和5年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価結果報告書、こちら令和4年度事業が対象でございますが、こちらの作成を進めております。

それでは、資料2の1ページをご覧いただきたいと思います。

点検・評価の対象であります。1ページから3ページにかけて記載しております全51事業を対象としております。

次に、17ページをご覧いただきたいと思います。

具体的には、こちらの17ページの表の一番右側、各年度の点検・評価対象事業でありますけれども、そちらの一番左側に記載となっております、令和5年度（令和4年対象）と書いてありますが、こちらの黒丸が付いている17事業が今回の対象となっております。

4ページにお戻りいただきたいと思います。

当該点検・評価は、中段に記載のとおり、4名の外部評価者から点検・評価を受けております。

6ページをお開きください。

ここからは令和4年度の定例会・臨時会における審議内容や活動の内容について記載しております。

13ページをお開きください。

ここからは、愛川町教育大綱に基づく基本理念等を掲載しております。本年3月に第2次教育振興基本計画を策定したことに伴い、その内容に沿った形に掲載しております。

18ページをお開きください。

18ページから56ページにかけまして、本年度の対象となる17事業の点検評価の内容となっております。こちらにつきましては、先月教育委員の皆さんにご意見をいただいているとこ

ろでございます。今回につきましては、教育委員さんからのご意見を踏まえ、教育委員会各課において教育委員会の考え方をまとめましたので、こちらにつきましてご意見、ご質問がありましたらお願いできればと存じております。

併せて、そのほか、報告書全体につきましても、何かありましたらご意見をいただければと考えております。

説明は以上でございます。

○（佐藤教育長） これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見等がありましたらお願いいたします。

○（大貫委員） 32ページ、教育委員会の考え方の第1項目途中に、継続的に教職員ストレスチェックを実施するという文言が書いてあって、もちろん実施してもらいたいのですが、これはチェックをする発信元が重要だと思っています。古い話で、私も現職だったときに、校長が出したというわけじゃないけれども、ストレスチェック表を職員にやってもらったことがあるのですが、そんなに効果が得られるチェック表を出さないんです。要するに、チェック表をしてくださいと発信する人によってチェックをする職員の反応が変わるということです。

だからやはりチェックするのであれば、その発信する人が例えば養護教諭とか、場合によっては学校医とかにお願いして、先生方が、うん、これなら正直に答えて分析してもらおうみたいに思えるようなところからチェック表を発信したほうがいいと思っています。

でも、今回、報告書に文言が載っていますので、ぜひそれは今言ったようなことも加味して実施してもらいたいなというふうに、これを読んで思いました。

○（佐藤教育長） 教育総務課長。

○（宮地教育総務課長） ありがとうございます。現在、ストレスチェックは業者といますか病院なんですけれども、そこに委託してチェックをさせていただいております。項目に沿って先生方がチェックをして、まず自分で気づいていただく。自分がどういう状態なのかというのをチェックした結果、専門家の結果が自分に返ってきますので、まず自分がどういう状況なのかというのを気づいていただく。そこに少し重点を置いて、このチェックはしております。

当然、先生ご本人が医師との面談を希望すれば、その後にもつながるような制度になっておりますので、先生方にとりましては、まずは気づく一つのきっかけにさせていただくというようなことでやっております。今、大貫委員さんのご意見もありますので、そういったとこ

ろにも十分配慮しながら、今後も意味のあるストレスチェックになるように対応してまいりたいと思っております。

以上です。

○（佐藤教育長） 他にいかがでしょうか。

事務局のほう確認ですけれども、ここでもう意見は出さないといけないでしょうか。

教育総務課長。

○（宮地教育総務課長） 会議中では時間もタイトという部分もありますので、本日お持ち帰りいただきまして、後日改めて意見等が出た場合は、大変恐縮ですが、資料に同封しております意見書をご活用いただきまして、恐縮ですが11月1日水曜日までに、何か改めてご意見等がありましたら、事務局へご提出いただきますようお願いしたいと思います。

後ほど担当のほうからメールで回答様式を送付させていただきますので、もしこの後お気づきになったというところがあれば、メールでご提出いただければと思っております。

以上です。

○（佐藤教育長） ということでございますが、この場で何か発言がある方はいらっしゃいますか。

（「特になし」との声あり）

○（佐藤教育長） では、改めてまた見ていただいて、もしご意見等があるようであれば、事務局に伝えていただけたらと思います。

それでは、教育委員会の点検・評価についてはご了承願います。

次に、令和5年度町学力検査の結果と今後の展望について、資料3に基づき担当からご説明申し上げます。

○（会場指導室指導主事） 指導室指導主事です。

令和5年度町学力検査の結果と今後の展望についてであります。

資料は3でございます。

同じ検査を実施した全国の結果と比較した分析でございます。

この検査は、小学5年生、中学1年生、中学2年生を対象に実施しております。

まず、現中学2年生の分析です。現中学2年生が中学1年生のときの結果と比較しますと、国語・数学ともに伸びが見られます。

意識調査の、家庭学習の環境や習慣についてや学びの基礎力などにおいても伸びが見られることから、学力と関係の深い基礎的な力がつき、教科の力の伸びにつながっていると考え

られます。

また、国語ではどの学年も「質問したりアドバイスし合ったりして、思いや考えを伝え、先生や友達、地域の人と進んで交流しようとしている」という項目において、肯定的な回答の割合が比較的高くなっておりました。

一方で、「事例や結論、その理由といった、関係を考えながら読むことができるようにしている」という項目では、肯定的な回答の割合が、全国の平均に比べて大きく下回っております。物語文よりも説明的な文章に関する問いの正答率が低い傾向があり、説明的な文章の読み取りを諦めがちであるようです。他教科においても、論理的にじっくり考える力を育ていけるとよいと思われまます。

算数・数学については、比例・反比例では多くの児童が未定着、分数の計算では定着度に差があるなど、単元によって特徴が見られました。このような単元ごとの傾向を把握して、教科指導に当たることが重要であると考えられます。

資料の下段に、町内児童生徒の意識に関する調査結果についてでございます。

ここにある表は、意識調査において学力の上位25%の層の回答と、下位25%の層の回答を比較した際に、肯定的な回答をした割合の差が大きい質問について示したものです。自分と違う意見も尊重しているなどの質問に対して、よく当てはまる、当てはまると答えた児童生徒が多いのは、学力の上位層でした。各学校はこのような特徴を念頭に置いて、児童生徒の働きかけに生かせるとよいです。

最後に、3今後の展望についてでございます。

各小中学校の自校の分析においても、単元ごとの課題や学力層の到達度等に着目した指導の方策が挙げられました。また、8月に行われた教務主任の会議では、中学校区ごとに互いの結果を見つめることで、自校での指導の方策の手がかりにつながる対話が生まれました。

このように、町学力検査の結果を各校で意識することが、よりよいカリキュラムデザインの構築や、児童生徒の実態に即した日常的な言葉がけにつながると考えられます。教育委員会としても、引き続き学校間の情報共有の場や、調査結果の活用方法等に関する情報提供の機会を設けていきたいと考えております。

以上でございます。

○（佐藤教育長） これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見等がありましたらお願いいたします。

梅澤委員。

- （梅澤委員） 資料の2番、町内児童生徒の意識に関する調査結果の表の右段、上位層と下位層の差の単位は何ですか。
- （佐藤教育長） 指導室指導主事。
- （会場指導室指導主事） 25%の上位層の子たちの回答割合と、25%の下位層の子たちの回答割合のパーセント同士を引き算したものです。
- （梅澤委員） 全国比較の中だと、こういう問い、例えば新聞や本を読んでいることと、得点率、上位層、中位層、下位層をクロス集計みたいな感じで出すのかなと思われて、こういう差分で見るのはなかなかないなというので質問をしたまでです。差があることはよく分かりました。
- （佐藤教育長） これについては、単位をつけてあげないと分からないかもしれないですね。
- （会場指導室指導主事） 補足してよろしいでしょうか。今、「本や新聞を読んでいる」が38.5となっておりますが、ちなみにこのパーセンテージとしては、A層とって得点上位の25%のうち肯定的な回答をした割合が78.5%だったのに対して、D層という得点下位の25%では、その割合が40.0%ということで、その差が38.5ポイントになっているということです。
- （梅澤委員） なるほど、ありがとうございます。
- （佐藤教育長） 他にいかがでしょうか。
篠崎委員。
- （篠崎委員） 2番の調査結果の上にかかれてある部分、国語のところの説明的な文章、内容を読み取ってまとめる問いについて、無解答率が高かったということなんですけども、分からないからという単純な理由よりも、例えば時間が足りないとか問題を見て、時間足りないからここは難しそうだ、飛ばしちゃおうみたいな、そういったことで無解答なのかなというちょっと推測をしているんですけれども、やはり普通の学校のテストの形式とは違う形式で行うテストを、たくさん回数を重ねてたくさんやって慣れるということも必要かなと思っています。
- いつも私は言うてしまうんですけども、本当に毎年こういうテスト、大きな結果報告などはこの学年でいいのかもしれないんですけども、慣れるために、こういった学力テストを毎年毎年全部の学年でやるべきだというふうに考えています。私はそういった意見を持っていますので、ご検討いただければいいなというふうに思っています。
- 以上です。
- （佐藤教育長） どうでしょう、今のご意見について指導室の方で何かありますか。

指導室長。

○（菅沼指導室長） ご意見は参考にしながら、実際どのような対応があるかどうかは検討してまいりたいと思います。

○（佐藤教育長） 梅澤委員。

○（梅澤委員） ちなみに、この町学力検査は全国学力・学習状況調査の前に行っている、多分毎年行っているテストだと思います。恐らくこういうものを小6の前に小5で、中3の前に中1、中2でやって、かつこうやって経年変化で見てくださっていること、これは長年私もお伝えしていますが、全国との比較ではなく、この子たちが昨年度と比べてどうなのかと、縦断的に見ていただいていること、このことを継続することが私は大事なかなと思っています。

加えて述べるならば、以前は議員さんなんかでも、全国と比較して低いじゃないかみたいなことを私に伝えてくる方がいらっしゃったんですが、このようにお答えしました。PIAAC（ピアック：OECD国際成人力調査）という大人の学力調査があるので、全国の議員さんと愛川町の議員さんを比較しましょうということを行ったことがございます。

子どもの学力に一番影響を与えるのは、親がつくる生活環境なんです。そこが一番。もっとリアルな話をしてしまうと、2013年のお茶の水大学の耳塚先生の調査でも、親の学歴、親の所得、生活環境と、もうそこが決定的に学力に影響を与えるということが明らかなのです。その状況において、かつ本町においては外国からのルーツがあるお子さんたちが多く中で、全国と比較なんていうのはほぼ意味がないと。その子たちがウェルビーイング、どうやって楽しく豊かに生きられるために学んでいくかと、そのことを重視していきましょうという形。なので、この調査も恐らく昨年度と比較してという、そういう調査を行っているんですね。

さらに、先ほどの2番のところも、やはり環境による差、本や新聞を読んでいると、そういう学習環境が与えられている子ほど高いということが明らかなので、このあたり、いわゆる文化的な側面からも、保護者にはアピールをしていく必要があるのかなと私は考えています。

以上です。

○（佐藤教育長） 他にいかがでしょうか。

大貫委員。

○（大貫委員） 同じような考え方なのですが、今の2番の調査結果のところ、中学1年、中学2年のところを読んでいると、「調べてわかったことをもとに、考えをまとめることができる」の差が35.7、「調べたことを、パソコンを使ってまとめたり、発表したりすることが

できる」の差が33.7、「調べてわかったことをもとに、考えをまとめることができる」の差が29.7。これ、裏を返すとまとめることができないということですね。考えをまとめることができない子が一方いる、そういうふうに捉えられますよね。

そうでしたら、分析をする際に、何で考えをまとめることができない子がそれだけいるのかなという考えをしたほうが、教育委員会としては対策を打ちやすく、現場の先生方にアドバイスをしやすい、すぐに現場で使える調査結果になるのではないのでしょうか。

今、梅澤委員も言われましたが、考えをまとめるのは、結局、頭の中で、国語力だと思うのです。人間は、最終的に考えをまとめるのは、頭の中で言葉でまとめているんだよね。これは母語でまとめているとうことです。だから外国籍で来日した人の、さらにその上の親御さんたちは、考えをまとめるときに日本語でまとめてないので、生まれ育ったところの言葉でまとめているんだと思うんです。そこに一つワンクッションあるから、母語が日本語でない方に育てられた子どもたちはやはり苦しいと思うんです。試験をやったり、この調査をやったりするときに、日本語で一度で考えをまとめるににくい。だからこういう差が出るんだと私は思うんです。

だから、やはり本町の地域性みたいなものを考えたら、そういう言葉をまとめるような能力を育てる教育みたいなものに少し力を入れたほうがいいんじゃないかなとは、個人的には思うんです。だけど、今他にもやることがいっぱいありますよね。あれもやれ、これもやれ、新しいことは入ってくるから、つい、基本的なものがちょっと疎かにされてしまいがちになってしまいます。その基本的なものをないがしろにすると、この差はいつまでもずっと引きずってしまうのではと危惧しています。

○（佐藤教育長） 今の大貫委員さんのお話、例えば国語についてはグラフなんかを見ていただくと分かるんですけど、例えば下の表の小学校5年生のときと中学1年生を見ると、山が上のほうになっています。なかなか算数・数学については積み重ねがものをいうので、引きずってしまっていて難しいのですが、やはり国語についてはそうやって成果が出てきていると読み取れます。

○（大貫委員） もちろん、国語においても成果は出ていると思います。ですが、私が言っているのは国語の調査結果じゃなくて、国語力についてです。もっと言うと母語力、自分で話す言葉を考える能力、場合によっては、書く力、そういう意味の国語力です。

国語の採点の調査、点数が向上してきたということはもちろん評価しますが、全てにわたって頭の中で考えるのは国語、つまり、母語です。国語というとすぐ教科の国語になって

しまうから、あえて私は国語力と言ったのですが、生まれ育って親や社会の人から教えて、自分で自ら身に付けてきた言葉。これをもう少し国語に使えるような、言葉で表現できるような人を育てない限り、算数・数学、あるいは社会、こういったようなものが伸びていかないのではと思います。

- （佐藤教育長） 私も同じ考えを持っているのですが、ただ、日本語指導をしていて、外国籍の子どもたちもその中で日本語を学んできているので、国語力については上がってきていると私は思います。

やはりそれをもっともっと効率的に進めていくような手だてをしていく必要があるでしょうし、日本語指導協力者の方も今学校に入っていますけど、十分ではないというような状況もありますので、その辺のところは比較的支援しやすい部分に、今様々な課題はあるのですが、そのところは手だてがやっつけられるかなというところは、少し感じてはいるのですが、算数・数学については、これはなかなか、1回つまずくとずっと引きずっている感じがあって、中学校へ行ってもなかなか成績が伸びないという部分もありますので、そこはもっと何か手だてをこれから考えていかないと厳しいなというのは、ちょっと感じてはいます。

いずれにしても、この結果については、町ホームページにも公表しますし、また学校のほうにも下ろしていきますので、教育委員さんの中でも、これを見てご意見等があれば遠慮なく会議後でもご連絡いただき、公開前に、修正も加えていきたいと思えます。

（「はい」との声あり）

- （佐藤教育長） ですので、またご自宅等でゆっくり見ていただいて、ご意見等があったら事務局のほうにいただけますでしょうか。また検討させていただきたいと思えます。

この場でまだご意見ある人いらっしゃいますか。よろしいですか。

（「はい」との声あり）

- （佐藤教育長） それでは、町学力検査については以上とさせていただきますので、一応ご承知を願いたいと思えます。

続きまして、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果と今後の展望について、資料4に基づき担当からご説明を申し上げます。

開発センター所長。

- （瀧教育開発センター所長） では、資料4をご覧ください。

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果と今後の展望についてでございます。

まず、左側のほうから説明させていただきます。

町内児童・生徒の評価に関する調査結果であります。小学6年生について、全国・県と比べて国語は約10ポイント、算数は10ポイント以上下回っており、全体的には中位層から下位層が多い傾向にあります。

中学3年生については、全国・県と比べて国語は約7ポイント、数学は約10ポイント、英語は約4ポイント下回っております。

領域別に見ますと、国語の話すこと・聞くこと・読むことについては、中学3年生の正答率が79.3%、県や全国に約3ポイントと迫っております。記述式の無解答率は、小学校がやや多い傾向にあります。中学3年生英語の聞くこと・話すことにおいて、全国の平均正答率に迫っております。

続いて、ページの右側でございますが、改善策についてでございます。

各校において、調査傾向を分析した主な改善策を挙げております。

まず国語です。無解答率が多いという傾向から、学習の振り返りや自分の思いや感じたことを書き、書くことへの抵抗を減らす活動の機会を設定することや、ノート・作文指導など、ICT機器に頼らない部分の学習にも力を入れてるなどの改善策が挙げられました。

続いて、算数・数学です。協働的な学びの観点から、児童生徒同士で対話しながら考えさせる。他者に分かりやすく説明する活動を取り入れながら、課題解決できる授業を設定すること。また、全体的に基礎となる部分が不足しているという観点から、タブレットを活用するなど、短時間での反復練習などを計画的に取り入れる。また、家庭学習など主体的に学習に取り組めるよう、家庭との連携を図るなどの改善策が挙げられました。

次に、英語です。聞くこと・話すことの充実比べ、書く部分を強化する観点で、覚えている単語を使い、文章を自分で作る機会を増やすという改善策が挙げられております。

続いて3番、町内児童・生徒の質問紙調査に関する結果についてでございます。

令和5年度は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか、学校の授業時間以外に普段1日当たりどれぐらいの勉強をしますかという2つの質問に対して、回答した児童生徒の教科ごとの正答率をクロス集計した結果でございます。町平均正答率より高い数値に、少しグレーになっている網掛けをしております。

授業中の話し合い活動の充実が、正答率の向上につながっております。また、小学生では1時間、中学生では2時間ほどの家庭学習をしている子どもは、一定の成果が出ている結果となっております。タブレット端末を活用したドリル学習も有効な手だての一つと感じました。

最後に、今後の展望です。

〇〇の勉強は好き、学校に行くのは楽しい、友達関係に満足しているなど、学校生活への満足度は高い傾向があります。児童生徒の思いを、学習の中で個別最適な学びや協働的な学びとして進めていくことが必要であります。一人一人に合った柔軟な指導、多様な考えから良い学びへとつなげる指導を推奨し、児童生徒一人一人の学習意欲の向上を目指していきたいと考えております。

説明は以上です。

○（佐藤教育長） これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見がありましたらお願いいたします。

梅澤委員。

○（梅澤委員） 4番の今後の展望に書いてあるとおり、ここがまずは第一義的に重要なところかなというように思われます。すなわち、勉強が好きであるとか学校に行くのが楽しいとか友人関係に満足をしている、いわゆるウェルビーイングのところなんです。わくわく、満たされている状況にあるということ、このことがやはり学校教育の大前提かなと思われるので、まずはそのことが本町の子どもたちは高いところが、一つ良いことかなと。

一方で、いわゆる数値的なところについては少し改善策があると。となると、この上に書いてある改善策のところなんです。ここをさらに精査する必要があるかなと私は考えています。

例えば国語のところです。学習の振り返りで、自分の思いや感じたことを授業の最後にかきましようということがあるんだけど、これ抽象的に書かせるのはやめたほうがいいです。より具体的に、今日学んだことを100字以内で3分以内、そんな形で提言するんですね。加えて、今日学んだことを踏まえて次やってみたいこと、次の時間にもっと学んでみたいことを書かましよう。実はこのことが、OECDラーニング・コンパスで言われているAARサイクルを回していることにつながります。

最初のAはAnticipation、見通しです。次のAは行動、Actionです。最後のRはReflection、振り返りです。つまり、振り返りは何のためにやるかというと、抽象的なことを聞くのではなくて、次どんなことを学びたいかという、その次の見通しを持たせるためにやっていく。このことが、まさに主体的に学習に取り組む態度という評価観点の重要な軸である、自らの学習を調整する側面、この自己調整学習が、まさにAARサイクルを回すことだと。

どうでしょう、町内の先生方、そのことが理解されてちゃんと評価をつけているとか、このあたりは指導室のほうでしっかり確認をする必要があるかなと私は思っています。少なくとも全国の学校をお邪魔していて、自己の学びを調整する側面について説明できる先生いらっしゃいますかという質問をすると、多くの方が説明できない状態です。町内の先生方は、そのあたりは理解できていることを期待しますが。

つまり、自分で実行したことを振り返って、次の見通しを持たせるような学習場面をしっかりと設定してもらいたいなと思っています。そのことが自立的な学習につながることになる。この自分で学びたいと思っていることが、実は内発的動機づけが一番つながると。今はきつと子どもたち同士の関係がいいとか、何か休み時間が楽しいとか給食がおいしいとかいうところ、もしかしたら授業も楽しいとあるかもしれませんね。

そこに加えて、学ぶことが楽しいということがもっと前面に出されたら、なぜ楽しいかと言われたときに、自分たちでこうやって進んで学ぶことができるからだ。そのプロセスでは、実は思考・判断、表現力の部分が決定的に表出しているはずなんです。振り返って、自分で表現して。だらだらと今日の授業楽しかったですなんて、そんなのどっちでもいいですね。なぜ楽しかったか、どこが楽しかったとか、楽しかったから次どうしたいのか、そんな考えを持てる子たちを、町内に増やしていきたいなと思っています。ぜひ改善策に加えていただけると助かります。

以上です。

○（佐藤教育長） 教育開発センター所長。

○（瀧教育開発センター所長） ありがとうございます。町内のお子さん、それから先生たち、まず学級の経営という部分で、本当に子どもたちに親身になってやっているところはあります。その中で、子どもたちがまず学級を好きになっていく、学校を好きになっていく、先生を好きになっていく。

そして、その上で今、梅澤委員さんがおっしゃった、振り返りの活動も含めた学びのほうにポイントを置いていくというのがまた必要になってくるのかなと思いますので、また今後の参考とさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○（佐藤教育長） それでは、今のご意見をこの改善策の中に入れて、少し検討してください。

○（瀧教育開発センター所長） はい。

○（佐藤教育長） 他にいかがでしょうか。梅澤委員。

○（梅澤委員） 今年度教科書採択を行いました。教科書採択の要因の一つにQRコード、そ

の中での練習問題かつ自動採点機能みたいなことを評価した記憶がございます。今の教科書にどの程度あるかははっきりと把握していませんが。つまり、積上げ型の算数・数学で苦労していることが少し見えてまいりましたので、先生が全ての丸を付けるのではなくて、そういったものは全て自動化させて、AIに、端末にやらせて、反復して、間違ったらば次の問題が出るような、そういった仕組みが徐々に整いつつありますので、ぜひ効率的に、ここ3番の後半にも書いてありましたけども、タブレット端末を活用した、そういうドリル学習をぜひ推進していただければと思います。

以上です。

○（佐藤教育長） 大貫委員。

○（大貫委員） 毎年この調査結果を分析したのをホームページに載せてるのですが、例えば今の学力調査の中学3年生の一番最後のところに、小学校からの積み重ねで国語の力が向上している傾向がありますとか、これは良いことですよね。

しかし、どうしたから向上したのかというのは書いていない。何を言いたいかといいますと、やっているんですよ、先生方も教育委員会も、いろんなものを提案して、町の教育を良くしようとやっているんですけど。調査結果の裏にこういうことを積み上げて関係各所やっていたから、今回はこういう結果に結びつきましたみたいなものを、堂々と載せてもいいのではないかと思うのです。そうでないと、見る人によっては、何でまだ全国とこんなに差があるのかよと、そこばかり見てしまうので。

だから、こういうふうなことをやって少しずつ効果が出ていますと言っていくことも、自信を持って宣伝をしたほうが良いと思います。ちゃんとやっていて、こうやって効果が出ているんだと。

ただそれをこの3行で終わらせるんじゃなくて、こうやって取り組んで分析して、また指導に生かしましたから効果が出ましたみたいなことは、どこかで文言を入れたらいいと思います。つまり、単に、国の調査、町の調査もやっているわけではないことをやはり発信していった方がよいと思います。

○（佐藤教育長） 梅澤委員。

○（梅澤委員） 発信の仕方として、昨年度のこの資料のリンクを張る。今の中学校3年生が中2のとき、中1と比べてこれだけ国語の学力が伸びてきた経緯があります。その子供たちが受けた今回の中3の学力・学習状況調査では、という形になると、全てを書くと、情報が多過ぎると逆に読まなくなっちゃう可能性があるんで、リンクを張ってそこに飛べるように

しておきながら、この子たち、中3の子たちが伸びたプロセスを簡潔に説明できるかというの
かなと思いました。可能であれば。

- （瀧教育開発センター所長） 検討してみます。
- （佐藤教育長） そうですね。成果の過程を知らせたいという思いはあるので、紙面の都合
もあるでしょうから、そこは検討していただいて、今大貫委員さん言われるような形の思い
も、反映できるところはできるだけ反映していく。今梅澤委員さん言われたところの、リン
クを張るというのも一つの方法だと思うので、それはちょっと検討していただいて、どうい
う形が一番いいのかというのを検討してください。
- （瀧教育開発センター所長） はい。
- （佐藤教育長） そういう形でいいですかね。大貫委員さん、よろしいですか。
- （大貫委員） はい。
- （佐藤教育長） 他にございますか。

それでは、もしまた何か気がつかれるようであれば、後日お願いしたいと 思います。

それでは、他に質疑がございませんので、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果と今
後の展望についてご了承願います。

◎閉会

- （佐藤教育長） 以上で本日の案件は全て終了いたしました。何か委員さんからご意見、
ご感想等がありましたらお願いいたします。
- よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

- （佐藤委員長） 事務局何か。

（「特にございませんとの声あり」）

- （佐藤教育長） それでは、以上で10月の定例会の議事日程が全て終了いたしましたので、
閉会としたいと思います。ご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

- （佐藤教育長） ご異議ないものと認めます。

よって、10月の定例会を閉会といたします。大変お疲れさまでございました。

なお、次回の定例教育委員会は、11月28日9時からこの201会議室で開催しますので、よ
ろしくお願いいたします。

愛川町教育委員会会議規則第17条第2項の規定により、ここに署名をいたします。

令和5年11月28日

教育委員会教育長

佐藤 照明

教育委員会

教育長職務代理者

大貫 洋

教 育 委 員

梅澤 秋久

教 育 委 員

篠崎 美和

教 育 委 員

欠 席

調 整 職 員

池村 茉莉子